

Dec. 1951

(20)

g. 41-1
05/10

**ОБВИНИТЕЛЬ ОТ СОЮЗА ССР
в Международном Военном Трибунале в Токио**

Document No 1951
USSR N 4I-I

THE AFFIDAVIT OF ARADO SABURO OF FEBRUARY 23,
1946 IN JAPANESE

g. 41-1
05/10

訊問調書

浅田三郎

一九〇三年生

國籍 日本

陸軍大學校卒業

日本陸軍大佐

関東軍參謀部第三課長

1957

一九四六年二月三日モスコ市ニ於ケル訊問シタルモノハ東京ニ於ケル國際軍法會議ノソウエイエツト聯邦側次席陰事エス・ヤ・ロゼンブリート大佐

問 貴官ノ日本陸軍ニ於ケル勤務ノ最初ヨリ從事セル職務ヲ列擧シナサイ、

答 一九二二年私ハ東京ノ幼年學校ヲ卒業シテ後 歩兵聯隊ニ於テ半年士官候補生トナリ、其ノ後東京ノ士官學校ニ在學ナシ、一九二四年卒業

第十五師團歩兵第六十聯隊ニ派遣セラレ小隊長トシテ約一ケ年勤務

浅田三郎

(二)

シマシタ 其、後歩兵第十八聯隊ニ轉任シ一九三〇年迄小隊長トシテ勤
務シマシタ 一九三四年見習士官ヲ命セラレ同年少尉ニ任官、一九二
七年中尉ニ任セラレマシタ 一九三〇年中尉、東京ニ在ル陸軍
工科學校ノ教官ニ轉任シ一年間勤務ノ後陸軍大學校ニ入校シ一
九三四年迄在學ニマシタ、一九三二年大尉ニ進級致シマシタ
一九三四年大尉學校卒業後滿洲ノ佳木斯駐屯歩兵第十八聯隊中隊
長ニ補セラレ一九三六年迄勤務ニマシタ
一九三六年參謀本部ニ召還セラレソノ聯邦ニ入國ノ準備ヲ致シマシタ
同年「ブラゴヤ」駐在滿洲國領事館ノ主事ニ任官シ後同
領事館ノ副領事ニ任命セラレ一九三九年迄勤務シマシタ 該地在勤
間勲四等旭日章ヲ授ケラレ一九三七年少佐ニ任セラレマシタ
一九三九年日本陸軍參謀本部ニ召還セラレ第五課兵要地誌班長補
佐官ノ職ニ就キ一九四〇年迄在勤シマシタ 一九四〇年哈爾濱陸軍
特務機關長補佐官ヲ命セラレ一九四一年中佐ニ進級シマシタ
一九四一年私ハ再ヒ參謀本部ニ歸リ參謀本部第八課宣傳班長ヲ命セ

浅田三郎

(三)

ラレ一九四三年迄勤務シマシタ一九四三年豊原陸軍特務機関長
ヲ命ゼラレ、一九四四年三月 在札幌北部軍參謀ニ補セラレ、同年
大佐・進級シマシタ

問 何時豊官ハ再度哈爾濱ニ轉任シソシタカ。

答 一九四四年末私ハ哈爾濱陸軍特務機関長補佐官ニ補セシマシタ
一九四五年四月 關東軍參謀部第二(偵察)課長ニ補セシ約半年
在勤務シマシタ

問 其ノ様ニシテ初メテ豊官ハ一九三四年滿洲ニ来タノデスカ。

答 ハイ、一九三四年陸軍大學校卒業、後テス

問 其ノ時期ニ於ケル豊官ノ滿洲勤務ハ何ウデアツタカ。

答 既ニ申上ケタ如ク私ハ一九三四年ヨリ一九三六年迄歩兵第十八聯隊中隊
長ノ職ニ在リマシタ 中隊ノ主ナル任務ハ一般在滿日本軍隊ト同様一九
三一年日本軍、滿洲獲得後實質的ニ設定セラレタ占領地秩序ノ
維持ニ在リマシタ

問 夫レハ具體的ニ何ナコトデアツタカ

浅田三郎

貴官ノ中隊ヲ言ム軍隊ハ反日行動ノ武力鎮壓ニ參與シタコトガアツタカ

答 ハイ、私ノ中隊ハ少クモ四回 日本軍ヨリ撃破セラレ 日本式ノ秩序ニ不満ノ住民ニ支持セラレタ支那政府ノ殘黨ノ討伐ニ參加シマシタ 此等モハ日滿政權ニ對シ暴動ヲ起シタモノテ私共ハ之ヲ匪賊ト呼ビマシタ 軍ノ任務ハ此等ノ匪賊ヲ撃滅スルニ在リマシタ 私共ハ彼等ノ山寨ヲ撃滅シ抵抗スルモノハ殺シマシタ

問 貴官ハ捕虜ヲ何ウ處置シタカ

(四) 答 捕虜ハ一度モアリマセデシタ 射殺サレナカツタモノハ逃ゲテ服装ヲ變ヘ之ヲ發見スルストハ困難デシタ

問 貴官ハ日滿警察ガ滿洲ニ於ケル反日運動ニ對シ如何闘フシタカ知ツテ居マスカ

答 警察及憲兵ハ住民ノ意見ヲ調査スル自己ノ密偵網ヲ持テ日本式ノ秩序ニ不満ノモノカ判明シ或ハ此等ノ集會カ發見サレタ場合少數ナルハ自力ヲ以テ檢擧致シマシタ

問 多數ノモノノ組織ノ場合ニ警察及憲兵ハ何ウシマソタカ

答 此ノ場合ニハ 敬言察及 憲兵ハ 軍隊ノ 援助ヲ 求メマシタ

問 何時 貴官ハ 再ヒ 滿洲ノ 勤務ニ 就キマシタカ

答 私ハ 一九四〇年 哈爾濱 特務機關長ノ 補佐官トシテ 再度 滿洲ノ 勤務

ニ 就キマシタ

問 貴官ハ 自己ノ 滿洲不在ノ 四年間ニ 軍事的 諸準備ニ 如何ナル 變化ヲ 認メマシタカ

答 滿洲占領ノ 直後 一九三二年ヨリ 絶エズ 種々 施策カ 行ハレ 其ノ 結果

トシテ 滿洲ハ 一九四〇年迄ニ ソノ 聯邦ニ 對スル 軍事行動ノ 爲 強力

ナル 地盤ニ 變リマシタ 此ハ 此ノ 軍事的 準備ヲ 明カニスル 數字ヲ

完全ノ 記憶ニテ 居リマセンガ 滿洲及 朝鮮ニ 於テ 滿洲及 滿蒙國

境ニ 沿ヒ 戰略的ニ 重要ナル 鐵道、道路、倉庫、飛行場 及 築城

カ 參謀本部 及 關東軍司令部ノ 指示ニヨリ 新設セラレタコトヲ 申上ゲ

ラレマス

斯クシテ 瀋津、哈爾濱、黑河、羅津、牡丹江、佳木斯、新京、

ハロン、アルシヤン、齊々哈爾、黑河、平壤、四平、牡丹江、虎頭、

各鐵道線路カ 新設セラレマシタ

(五)

淺田 三郎

鐵道新設の目的ハ對ソ攻撃ノ豫想地區ニ向テ軍隊、兵器、食糧ノ迅速ナル輸送ノ要求ヲ充足スルニアリマシタ

新京、哈爾濱、牡丹江、奉天、齊齊哈爾、延吉、海拉爾、各市ニ

兵器、彈藥、食糧、火薬倉庫カ設置セラレマシタ

日本空軍ノ根據ノ為 新京、哈爾濱、奉天、牡丹江及對ソ國

境ニ沿テ諸地區ニ飛行場ノ設定及既存飛行場ノ擴張カ行ハレ

マシタ

(六)

關東軍ニ新ナル部隊ヲ以テ補充セラレ戰鬪準備訓練ヲ強化シマシタ

更ニ小官ハ參謀本部ニ於テ第五課兵要地誌班長補佐トシテ一九三九

年兵要地誌掛將校ト共ニソ聯邦極東地區ノ攻撃ニ際ニ使用ス

ル為ノ國境地區特別地圖及案内書ヲ作成シマシタ

問 外ニ貴官ハ日本ノ對ソ戰準備ニ就キ何ヲ知ツテ居ユスカ

答 一九四一年八月關東軍參謀部第三課長西村大佐ハ獨ソ戰争ノ開始

關聯ニ關東軍ニ對ソ攻撃ノ為特別ノ軍事的準備ノ實施ヲ課セ

ラレタル旨私ニ語リマシタ 西村大佐ノ言ニヨリハ此ノ施策ハ「關特演」

淺田三郎

秘匿名稱ヲ有スル計畫ニヨリ行フベキデアリマシタ

西村大佐トノ會談直後哈爾濱特務機關ニ對シ関東軍司令部ヨリ偵察行動ノ組織ニ関シ「関特演」計畫ノ一部ヲナス書類カ到着シマシタ

問 此ノ書類ニハ「関特演」ノ標記カアツタカ

答 否、書類ニハ「関特演」ノ標記カアリマシタ

問 「関特演」ノ意味ハ如何

答 「関特演」トハ関東軍特別演習ヲ意味シマス

問 此ノ計畫カ暗号化サレタコトヲ如何ニ説明シヨスカ

答 實質的ニ對シ戦ノ準備ヲ目的トシテ行ハレル軍隊ノ移動ハ其ノ目

的ヲ秘匿スル為「関特演」ノ名稱ヲ以テ暗号化サレマシタ

問 貴官ノ勤務間哈爾濱特務機關長ハ誰デシタカ

答 土居少將デシタ

問 夫ハ何年ノコトデスカ

答 一九四四年十二月ノ初頃デス

浅田 三郎

(八)

問

一九四二年ハ誰カ哈爾濱特務機關長ヲアツタカ

答

一九四一年哈爾濱特務機關長ハ柳田少將デシタ

問

誰カラ彼ハ偵察ニ關スル關特、演、計畫ニ一部ヲ受領シタカ

答

梅津大將カラアラス

問

何ニヨツテ貴官ハ之ニ就キ知ツテ居ルカ

答

關、特、演、計畫ニ示ス此ノ一部ヲ含ム關東軍命令ニハ梅津大將ノ署名カアリマシタ

問

其ノ命令ニハ如何ナル方向ニ偵察ノ特別ノ注意ヲ拂フヤウニ示セテアツタカ

答

ハイ、アリマシタ

問

具體的ニ言ヒナサイ

答

ウオロレーロフ、イマン、ネルケンスク、ノ方面及外蒙、コバル、ハ河南方地區
デス

問

對ソレ攻撃ニ際シ日本軍ガ攻撃ノ重点ヲ指向スル豫定ノ方向ハ如何デアツタカ

答

此ノ方向ハ只今私カ申述ヘタ偵察行動ノ主ナル地區ニヨツテ判リマス

浅田三郎

此ノ行動ハ、「ウオロシロフ」「イマン」地區ニ於テハ、沿海州及ソノ軍、南方兵團ヲ遮断シ又北方ニ於テハ、「シベリア」鐵道ヲ遮断シ「ザバイカル」地方ニ侵入スル目的ヲ以テ主攻敵手ノ實施ヲ完全ナラシムベキテアリマシタ
私共ニ攻撃準備、爲以前カラ、「ウオロシロフ」ニ向フ方向ニアル森林地帯
カ大兵團、機密、集中及移動ヲ容易ナラシメルコトニ特別ノ注意ヲ拂ツテ
居リマシタ

問 何時日本ノ第二第三軍ハ滿洲ニ移サレタカ

(九)
答 第二軍ハ一九四一年九月初旬滿洲ニ移サレマシタ

問 第三軍、移動ハ何時デアツタカ

答 同様一九四一年、九月デス

問 滿洲ニ於ケル日本軍ハ全部テ何個軍デアツタカ

答 全部テ六個軍デス

問 列擧シナサイ

答 第二、第三、第四、第五、第六、第二十軍

問 一九三六年貴官ノ滿洲出發時ニ於ケル関東軍ノ總兵力ヲ如何ニ判定シエヌカ

浅田 三郎

答 約三十萬

問 五四年三八

答 少クモ七十萬

問 哈爾濱陸軍特務機關ニ如何ナル謀略部隊ガアツタカ

答 哈爾濱特務機關長ノ隸下ニ四個ノ謀略部隊ガアリ其他ニ各地ノ

特務機關ニ夫々謀略班ガアツテ同様哈爾濱ノ中央特務機關ニ隸

屬シテ居リコシタ

(十)

問 其ノ四個ノ謀略部隊ノ名ヲ擧ゲテナサイ

答 滿洲國軍 第一獨立騎兵隊、隊長ハ、スミルノフ、大佐デ、松花江

驛ニ配置サレテ居リマシタ

問 部隊ノ兵員ハ何名ニシタカ

答 ニ百名デス

第二獨立騎兵隊、海拉爾ニ在リ、隊長ノ姓ハ、思ヒ出シマセン、兵員

ハ百五十名デス

第三獨立騎兵隊、横道河子驛ニ在リ、隊長ノ姓ハ、思ヒ出シマセン

浅田三郎

(土)

兵員ハ百名デス

第四ハ哈爾濱特務機關ノ特務隊デ隊長ハ牧野大佐、一面坡ニ配
置セラレ兵員ハ二百名デス

初メ、三個部隊ハ日系露人ヨリ成リ、第四ノ部隊ハ編成ニ日本人、
支那人、及日系露人ヲ有シテ居リマシタ

問 此等ノ部隊ノ爲煽動出版物ガ何カ發行セラレタカ

答 ハイ、發行セラレマシタ、出版物ノ多數ハ東京ニ於テ準備セラレ、哈爾濱特

務機關ニ於テ補足セラレマシタ

問 此ノ宣傳ヲ實行スヘキモノハ誰ニアツタカ

答 宣傳官實行ノ責任者ハ関東軍司令官デシタ

問 之ヲ爲彼ハ何ヲ使用スヘキデアツタカ

答 特務機關デス

問 實質的ニハ誰ガ如何ニシテソレ聯邦ノ領域ニ於テ宣傳ヲ實行スヘキデアツタカ

答 宣傳ハソレ放送及特務機關ヨリソレ聯邦ニ派遣セラル、密偵ヨリ

實施セラレベキデアリマシタ、密偵トシテハ日系露人、支那人、其ノ他カ考

浅田 三郎

慮サレテ居リマシタ

問 コビラが考慮サレテ居タカ

答 コビラ、廣汎ナル配布カ考慮サレテ居リマシタ

問 貴官個謀略部隊が直接ニ哈爾濱特務機關ニ隸屬シテ居タト陳述シタガ
他ノ特務機關ニ幾何ノ部隊カ屬シテ居タカ

答 一九四一年ニ特務機關全部テ十個デアリマシタガ奉天及大連特務機關
ハ自己ノ部隊ヲ持タズ残リ八個機關カ有シテ居リマシタ

問 此等ノ部隊及班ニ於ケル謀略及偵察員ノ總數幾ナルゲルコトガ出来マスカ

答 各部隊ハ百五十名乃至二百名ヲ有シテ居リマシタ

問 此等謀略員ハ如何ナル服裝ヲシテ居タカ日本軍ノ軍服ヲ着テ居タカ否カ説明シ
ナサイ

答 一九四一年ニ謀略員ニ市民ノ服裝ヲシテ居リマシタガ一九四四―四五年ニハ

其ノ一部ノモノハ赤軍ノ服裝ヲ着ルコトニシテ居リマシタ之ハソノ領ニ投入
後ノ作業ニ成果アラシムル爲ニ必要デアリマシタ

問 誰ガ赤軍ノ服裝ヲスルノニスカ露人カ支那人カ又ハ日本人カ

慮サレテ居リマシタ

問 コレが考慮サレテ居タカ

答 コレ、廣汎ナル配布カ考慮サレテ居リマシタ

問 貴官個、謀略部隊が直接ニ哈爾濱特務機關ニ隸屬シテ居タト陳述シタガ

他ノ特務機關ニ幾何ノ部隊カ屬シテ居タカ

答 一九四一年ニ、特務機關全部、テ十個デアリマシタガ奉天及大連特務機關

ハ自己ノ部隊ヲ持タズ、残りノ八個機關カ有シテ居リマシタ

問 此等ノ部隊及班ニ於ケル謀略及偵察員ノ總數幾ナルコトガ出来マスカ

答 各部隊ハ百五十名乃至二百名ヲ有シテ居リマシタ

問 此等謀略員ハ如何ナル服裝ヲシテ居タカ日本軍ノ軍服ヲ着テ居タリ否カ説明シ
ナサイ

答 一九四一年ニ、謀略員ニ市民ノ服裝ヲシテ居リマシタガ一九四四―四五一年ニハ

其ノ一部、モ、ハ赤軍ノ服裝ヲ着ルコトニシテ居リマシタ之ハソノ領ニ投入
後ノ作業ニ成果アラシムル為必要デアリマシタ

問 誰ガ赤軍ノ服裝ヲスルノシカカ露人カ支那人カ又ハ日本人カ

浅田三郎

答 白系露人デス

問 何所カラ赤軍ノ服裝ヲ取得シタカ

答 脱走兵カラ取得シマシタ

問 白日ノ工場ニ於テ赤軍ノ服裝ヲ製作シナカッタカ

答 ハイ、私、日本ノ工場テ準備シタ赤軍ノ服裝ヲ見タコトガアリマス

問 貴官ハ五四年及五五年ニ於テソレ領ニ此等謀略部隊ヲ投入スル爲メヲ準備スヘキ
何等カノ指示ヲ関東軍司令官又ハ參謀長カラソレ領シマシタカ

答 ハイ、カ、ル指示ガアリマシタ

問 此等ノ指示ハ何時誰ガ與ヘタカ

答 一九四五年三月山田大將ヨリ謀略任務達成ノ爲赤軍ノ後方ニ投入スル謀略部隊ヲ準備スヘキ指示ガ與ヘラレマシタ

問 関東軍參謀部第一課長松村知勝少將ノ言ニヨリ私ノ知り得タ所テハ一九四五年三月迄ニ對シ作戰計畫圖ヲ受領シ之ニ關聯シ山田大將カ上記ノ指示ヲ與ヘタト云フコトヲ説明シテケレハナリマセン

問 貴官參謀本部第八課ノ班長ニアッタト陳述シタカ

(五)

答 ハイ、私ハ一九四一年參謀本部第八課 第十一班長デアリマシタ

問 第八課長ハ誰デアッタカ又誰ニ隷屬シテ居タカ

答 第八課長ハ武田大佐デ 參謀本部第二部長岡本少將ニ隷屬シ

テ居リマシタ

問 當時ノ參謀總長ハ誰デアッタカ

答 杉山元帥デアリマシタ

問 第八課ハ何ノ仕事ヲシテ居タカ

答 第八課ハ國際情勢判断及日本ノ對外宣傳ノ業務ヲ實施シテ居マシタ

問 此課ノ第十一班ノ業務ハ如何

答 日本ノ對ソ宣傳ヲ組織スルコトデス

第十一班ハ對ソ宣傳ニ関シテ日本ノ内部、支那及其他ノ國及直

接ソ聯邦ニ於テ實施セラルヘキ日本ノ宣傳ノ爲資料ヲ準備シマ

シタ 資料ハ平時及戰時ニ於ケル宣傳遂行ノ爲ニ部門ニ作成

セラレマシタ 戰時用トシテハ宣傳セラルヘキ問題其ノ他ヲ説明スル對

ソビエト、寫眞等ノ形式デ資料ヲ準備シマシタ

淺田三郎

資料作成、爲私共ハソソ聯邦ノ状態ヲ研究致シマシタ 開戦後、

一九四一年及一九四二年私共ハ特ニソソ聯邦ノ組成ニ在ル各民族ノ動向ニ興味ヲ持ケマシタ 私共ハ日ソ戦ノ際ニ準備セル資料ニ基ツク宣

傳ニヨツテソソ聯邦ノ戦力ヲ弱化セシメ得ルコトヲ計畫シテ居リマシタ

此ノ方向ニ於テ關東軍司令部ニ所要ノ指示ヲ持ツテ居リ日本ノ宣傳及煽動實行ノ爲實際的作業ヲ行ハネバナリマセンデシタ

問 貴官ノ部下ハ何名デアッタカ

答 将校五名及其他ノ勤務者八名ヲ有シテ居リマシタ

問 此等ノ勤務者ハ如何ナル人カ又何ヲシタカ

答 彼等ハ通譯及助言者デアリマシタ

問 貴官ノ指導ナル班ノ業務ニ就キニ述ベナサイ

答 第十一班ハ宣傳及煽動ノ資料準備ノミニ從事シテ居リマシタ 宣傳及煽動ノ實際的業務ハ第一班カ擔任シ私共ハ之ニ利用スヘキ準備資料ヲ交附致シマシタ 之等及其他ノ資料ニ基ツク反ソ宣傳ノ實行業務ノ指導者ハ大本營陸軍報道部長ノ大平大佐及其後任ノ谷萩大

(六)

佐テアリマシタ

問 貴官が参謀本部ノ學校教官デアツタノハ何時ノカ

答 松ハ一九四一年十一月ヨリ一九四三年七月迄参謀本部ノ偵察勤務學校ノ教官デアリマシタ

問 校長ハ誰デアツタカ又學校ノ所在及名稱ハ如何

答 校長ハ川俣少將デアリマシタ 學校ハ中野區ニ在リ軍隊ノ如ク第三三部隊ト呼ハレテ居リマシタ

問 學生ハ何名アツタカ又其ノ修學期間ハ如何

答 約三百名在學ニシマシタ 學校ハ一九三八年創設セラレ特校學生ノ修學期間ハ一年デアリマシタ

問 此ノ様ナ學校ガ陸軍省ニ屬ソテ居タノニスカ

答 此ノ學校ハ最初陸軍省ニ屬シテ居リマシタカ後参謀本部ニ移サシマシタ 學校ガ陸軍省ニ屬ソテ居タ時代ノ指導者ハ秋草大佐ニスカ

問 答 ハイ、彼ノ最初ノ校長デアリマシタ 秋草大佐ノ後 學校ヲ指導シタノハ北島少將デ其ノ後 私カ勤務ニテ居タ時ノ校長川俣少將デアリマス

浅田三郎

問 貴官自身ハ學校ニ何ヲ教授シタカ

答 私ハ謀略業務ヲ教授シタカ 即チ偵察將校ニ對シ橋梁・鐵道線

及軍事的意義ヲ有スル目標ヲ爆破スル爲メ組織ヲ教ヘタカ

問 貴官ハ誰カラ教授ニ關スル指示ヲ受領シマシタカ

答 私ハ學校ノ教育計畫ニ從ツテ此ノ講義ヲ致サネバナリマセンデシタ

問 貴官ハ謀略ニ關シ何カノ教科書ヲ持ツテ居マシタカ

答 私ノ時ニハ教科書ハアリマセンデシタ 從ツテ私ハ自身デ自己ノ講義ヲ書

キマシタ 之ニ其ノ後印刷セラレマシタ

問 貴官ハ謀略業務ノ教授ニ就キ何カノ指令ヲ持ツテ居タカ

正式ノ指令ハアリマセンデシタ 私ハ對支戰ノ實驗並ニ其他ノ戰爭ノ歴史

及經驗カラ各種資料ヲ利用シマシタ

問 貴官ノ講義ニハ敵ノ指導者及高級將校ニ對スルテロノ行動ノ組織モ亦含マレテ居マ

シタカ

答 ハイ、敵ノ指導者及高級將校ニ對スルテロノ行動ハ謀略ノ一部分デアルト

浅田三郎

認メテ居リマシタ

問 コレヨリ行動ニ關スル教授ノ收買料ヲ貴官ハ何處カラ受領シマシタカ

答 資料ニ對外情報業務ニ從事シテ居ル參謀本部第二部ノ各課ヨリ
受領シマシタ

問 其ノ他ニ謀略ノ形式トシテ如何ナルコトヲ貴官ハ上記ノ學校ニ於テ教授シマシタカ

答 私ニ將校學生ニ對シ 敵ニ損害ヲ與ヘル爲 傳染病ヲ發生セシムヘキ各種
ノ強力ナル細菌ヲ以テ水源、食糧倉庫、鐵道列車 及多數ノ人ノ集合ス
ル場所等ヲ汚染スルコトヲモ 教授致シマシタ

(六)

此ノ教授モ亦謀略業務ノ一部トデアリマシタ

問 如何ナル種類ノ細菌ガ敵ニ損害ヲ與ヘルタメ汚染スルコトヲ豫想サレテ居マシタカ

答 「コレラ」「ペスト」「チフテリア」「ケブス」及「鼻疽」等ノ細菌カ豫想サレマシタ

問 日本ニ於テ如何ナル機關ガ細菌戰組織ニ對スル準備ヲ擔任シテ居マシタカ

答 私ノ知ツテ居ル所テハ 細菌戰ノ準備及實行ニ關係スル問題ノ研究ハ

東京牛込區ニ在ル 軍醫學校ガ擔任シテ居リマシタ

問 誰ガ此ノ學校ヲ指導シテ居マシタカ

戎田三郎

答

存ジマセン

問

學校ヲ修業シタ偵察將校ハ何ニ對シ使用ヤラレル豫定ニアツタカ

答

學校ハ此等ノモノヲソレ聯邦・米國・英國及支那ニ於テ秘密
戰實施ノ爲ニ養成シマシタ

問ニ對スル答ハ自筆ヲ以テ認メ署名ス

浅田

訪問シタルモノハ東京ニ於ケル國際軍法會議議一ソワイエツト聯邦側次席檢事

エス・ヤ、ロゼンブリート大佐

Esensky

陸軍通譯官ゴロニン中尉

Gorobun.

誓言約書

日本陸軍大佐 浅田三郎

予ハ證人トシテ眞實ノミヲ證言スルヲ約ス。

右ハ防諜將校 ヲロフ大尉ノ前ニ誓言約ス。

予ハ偽證ヲナシタル場合ニハ兩路西亞ソヴィエツト聯邦社會主義共和國ノ刑法第九十五條ニヨリテ刑法上主見任ヲ問ハルバシトノ警告告ヲ受ケタリ。

浅田三郎

一九四六年二月二日於モスコウ市

誓言約書受理者

防諜將校 ヲロフ大尉

A. Pennington

陸軍通譯官 ヲロフニシ中尉 J. Jacobson

111-b

誓言約書

日本陸軍大佐 浅田三郎

予ハ日本ノ第一級戦争犯罪者ノ実理ニ関シト眞實ノミヲ證言スルヲ約ス。

右ハ在東京國際軍法會議ソウイエット聯邦側次席検事ロゼンブリート大佐ノ
前ニ誓言約ス。

予ハ偽證ヲナシタル場合ニハ露西亞ソウイエット聯邦社會主義共和國ノ刑法第九
十五條ニヨリテ刑法上ノ主見任ヲ問ハルベシトノ警告告ヲ受ケタリ。

浅田三郎

一九四六年二月二十三日於モスクー市

誓言約書日受理者

在東京國際軍法會議ソウイエット聯邦側次席

検事ロゼンブリート大佐

Senft

陸軍通譯官ゴロフニン中尉

Gorobunin